

インドネシア
家族計画・母子保健プロジェクト
評価調査団報告書

平成4年11月

国際協力事業団
医療協力部

JICA
108
98.2
MCI
BRARY

医 一
J R
93 - 52

JICA LIBRARY



1120121171

278-10

インドネシア
家族計画・母子保健プロジェクト
評価調査団報告書

平成4年11月

国際協力事業団
医療協力部

国際協力事業団

27810

序 文

本プロジェクトは、インドネシア共和国中部ジャワをモデル地区とし、地域住民を対象とした家族計画の普及、ならびに母子保健サービスの推進により、乳幼児・妊産婦の保健衛生の質の向上とそれを支援するサービス・デリバリーシステムの強化を図ることを目的として、平成元年11月から3年間の予定で開始された。

今般、当事業団は本件実施に係る討議議事録に基づく協力期間が平成4年11月28日をもって終了するのに先立ち、これまでの協力内容等の評価をインドネシア側と共同で行い、本件協力の継続の必要性を検討するため、平成4年9月13日から9月23日まで、岡本 暁 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院小児科部長を団長とする評価調査団を派遣した。

本報告書は、本調査団が実施した調査および協議の内容と結果などをとりまとめたものである。

ここに、本件調査に当たりご協力いただいた関係各位に対し深甚なる謝意を表わすとともに、今後とも本件技術協力の成功のために、一層のご努力をお願いする次第である。

平成4年11月

国際協力事業団

理事 西野 世界

目 次

序 文

1. 評価調査団の派遣	1
1-1. 経緯と目的	1
1-2. 調査団の構成	1
1-3. 調査日程	2
1-4. 主要面談者	2
1-5. 終了時評価の方法	3
2. 要約	
2-1. 団長総括報告	5
3. 協力実施の経過	8
3-1. 相手国の要請内容と背景	8
3-2. 暫定実施計画（TSI）	8
3-3. 協力実施プロセス	9
3-4. 中間評価結果とフィードバックの状況	9
4. 目標達成度	10
4-1. 案件目的の達成状況	10
4-2. 各協力項目の達成状況	10
5. 案件の効果	12
5-1. 効果の内容	12
5-2. 効果の広がりと受益者の範囲	12
6. 評価結果総括	13
6-1. 評価の総括	13
6-2. 取るべき措置	13
附属資料1：協力実績表	17
2：ジョイントエバリュエーションレポート	21

1. 評価調査団の派遣

1-1. 経緯と目的

インドネシア共和国（以下「イ」国と略）家族計画・母子保健プロジェクト（以下プロジェクトと略）は同国中部ジャワをモデル地区とし、地域住民を対象とした家族計画の普及、ならびに母子保健サービスの推進により、乳幼児・妊産婦の保健衛生の質の向上とそれを支援するサービス・デリバリーシステムの強化を図ることを目的として、平成元年11月29日に討議議事録（R/D）を締結し、3年間のプロジェクト方式技術協力を開始した。

本調査団の派遣は、プロジェクトの協力期間終了を平成4年11月28日に控えこれまでの2年8ヶ月あまりの間に実施された協力の内容・実績とその成果について先方と合同で評価することを目的としたものである。

1-2. 調査団の構成

	担 当	氏 名	所 属
団長	総括および母子保健	岡本 暁	社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合 母子保健センター愛育病院小児科部長
団員	運 営 管 理	平中 英二	文部大臣官房文教施設部指導課 企画調整官
団員	小 児 科	秦 堅佐工	東京大学医学部附属病院小児科助手
団員	計 画 ・ 評 価	齋藤 雅治	J I C A 医療協力部医療協力第一課

1-3. 調査日程

日順	月 日	曜	移動及び業務
1	9月13日	日	移動 東京発—(香港経由)—ジャカルタ着
2	9月14日	月	JICA事務所にて打合せ 日本大使館・BAPPENAS・国家家族計画調整委員会(BKKBN) 表敬訪問 移動 ジャカルタ→スマラン
3	9月15日	火	中部ジャワ州医務局/BKKBN表敬訪問 視察:(Demak県)BKKBN/Wonosalam保健所 ポシアンドゥ/Demak病院訪問 保健所医師との意見交換
4	9月16日	水	視察:(Klaten県)Jatinom保健所/Tegalyoso病院訪問 ポシアンドゥ/保健所医師等との意見 交換 ジョグジャカルタ泊
5	9月17日	木	Moewardi病院訪問 移動 スマラン戻り
6	9月18日	金	Kariadi病院訪問 移動 スマラン→バンドゥンガン セミナー第1日(開会式他) バンドゥンガン泊
7	9月19日	土	第2日(討議、閉会式) 移動 バンドゥンガン→スマラン Mobile(移動広報車)活動
8	9月20日	日	移動 スマラン→ジャカルタ
9	9月21日	月	関係各機関を交えJOINT MEETING
10	9月22日	火	ジョイントエバレポート署名・団長主催昼食会 JICA事務所帰国報告 帰国 ジャカルタ発GA-872
11	9月23日	水	→東京着

1-4. 主要面談者

(1) インドネシア側

BAPPENAS
保健省

Mr. Budi Soeradi 人口家族計画部長
Dr. S. L. Leimena 地域保健総局長
Dr. Widyastuti 地域参加局長

中部ジャワ州事務所	Dr. Karneni	所長
	Dr. Andryansyah	部長
国家家族計画調整委員会 (BKKB N)		
(ジャカルタ本部)	Dr. Haryono Suyono	理事長
	Dr. Abdullah Cholil	計画・事業分析局長
	Dr. Soemarsono	計画部長
(中部ジャワ州事務所)	Drs. Soedjono	所長

(2) 日本側

在インドネシア日本国大使館	森口 裕	二等書記官
JICA事務所	高橋 昭	所長
	金子 節志	次長
	渡辺 学	所員
派遣中専門家	山下 市子	家族計画・母子保健
	岩柳 信也	業務調整
	佐藤 善子	地域栄養

1-5. 終了時評価の方法

(1) 調査項目

- 1) 当初計画と実際の協力実施プロセス
- 2) 協力実績 (日本側、相手国側)
- 3) 先方の管理・運営状況
- 4) 技術移転状況
 - a. 目標達成度
 - a-1. 上位計画との整合性
 - a-2. 案件目的の達成状況
 - a-3. 各協力項目の達成状況
 - b. 案件の効果
 - b-1. 効果の内容
 - b-2. 効果の広がりと受益者の範囲
- 5) 今後の協力方針
- 6) 教訓及び提言

(2) 調査方法

プロジェクトの当初計画に照らして、日本側・「イ」国側双方の活動実績、管理運営状況、及びカウンターパートへの技術移転状況について評価を行い、目標達成度を先方と共同で確認

する。

その際用いる指標・資料は以下のとおりである。

- 1) 討議議事録 (Record of Discussions:R/D)
- 2) 暫定協力計画 (Tentative Schedule of Implementation:TSI)
- 3) 技術協力の各形態に応じた要請書からなる先方政府の要請内容
- 4) プロジェクト実施過程で署名されたミニッツ等

以上の資料に基づいて得られた評価結果、ならびに日本側専門家・先方関係者との協議結果を、共同のジョイント・エバリュエーションレポートとして取りまとめ双方で署名する。

2. 要約（詳細は2-1. 団長総括報告参照）

- (1) プロジェクト・エリアである中部ジャワ州のデマック・クラテン両県を訪ね、協力の現場を視察した（保健所、ポシアンドゥ、地域病院、移動広報車活動等）。
- (2) 先方は本プロジェクトにより、地域レベルで多くの改革的な保健活動が軌道に乗り始めたことを高く評価している。また、保健省とBKKBNの相互協力が促進されたとしている。
- (3) 9月18日・19日の2日間にわたり、それぞれの活動を、中央ならびに中部ジャワ州各県の関係者に広く紹介するためのセミナーが開催された。
- (4) 調査団の滞在期間を通じて、先方より本プロジェクトの延長の要望が出されたが、本調査団の任務はあくまでも中立的な評価を行い、その結果に基づいて帰国後にrecommendationを行うことである旨、先方に対し再三説明した。
- (5) 先方との討議の末、とりまとめられた合同評価レポートにおいては、本プロジェクトを通じ構築された事業実施体制の強化と、モニタリングの継続により自力で活動を推進し得るための基礎作りが必要であると結論づけている。

2-1. 団長総括報告

2-1-1. 調査結果報告

(1) デマク県

1) ウォノサラム保健所

①TBA（ドゥクン）と保健所との関係は良好で、ドゥクンたちは研修結果を忠実に実行していた。プロジェクトによって供与されたドゥクン・キットは実用的だが、UNICEFのドゥクン・キットに比べ、ケースが脆弱であり、耐久性に問題がある。

②ポシアンドゥ・キットは助産婦たちによって十分に活用されていた。

2) デマク病院

プロジェクト開始後、保健所からの紹介が増えているとのことであったが、問題点としては患者の輸送手段が挙げられた。救急車は供与されているが、救急車を手配するための通信手段に乏しいため、機動力を活かし切れていない。

3) デマク全県下の保健所医師との意見交換

プロジェクト医療面での援助を要請するなど、本プロジェクトの趣旨が完全には理解されていない。リファラル・システムの入口を担う保健所医師の地域保健へ向けての意識改革が必要である。

(2) クラテン県

1) ジャティノム保健所

ダサ・ウィスマ・カダールからの家庭訪問カードがすでに保健所に集められており、助産婦がすべてに目を通しているとのことであった。ダサ・ウィスマ・カダールにとっては訪問カードの記入は特に負担ではないとのことであった。住民参加の活動が着実に根づきつつある印象であった。

2) ポシアンドゥ

家族計画、母子保健、栄養、予防接種、指導性、自立の6項目からなるポシアンドゥ・インディケータが使用され始めていた。家族計画分野に比べ、栄養・予防接種を含む母子保健分野の立ち後れが目立った。自立に関してはダナ・セハットと呼ばれる医療保険制度が指標となっていたが、現時点では皆無に等しい状況で、今後の課題であろう。

3) テガリヨソ病院

地理的条件のために重症患者は本プロジェクトのリファラル・ホスピタルであるソロ市のDr. ムワルディ病院ではなく、ジョグジャカルタ市の病院に紹介される場合が多く、本プロジェクトの大きな柱の一つであるリファラル・システムの強化には余り役立っていない。

4) クラテン全県下の保健所医師及び家族計画指導員との意見交換

医師が医療問題の興味に偏る傾向はデマク県同様であったが、環境保健のプロジェクトへの関心が寄せられたり、デマク県に比べれば、地域保健に対する意識が高いように感じられた。

(3) トップ・リファラル・ホスピタル

1) Dr. ムワルディ病院 (ソロ市)

供与機材は有効に使われているが、前述の通り、トップ・リファラルとしての機能を十分に果たしているとは言えない。

2) Dr. カリアディ病院 (スマラン市)

州都に位置する病院であり、またディボネゴロ大学の教育病院として設備・人員共に恵まれている。患者の輸送手段についての問題が挙げられたが、通信という社会インフラが未整備な状況で輸送手段だけ充実してもリファラルという意味からは十分とは言えない。

2-1-2. 現地におけるセミナーに関する報告

本プロジェクトを通して実施された、1)KMS Ibu Hamil 普及事業、2)新婚夫婦への保健教育、3)IEC プログラム研修、4)ダサ・ウィスマをベースとした住民参加、5)ポシアンドゥ・インディケータの開発、6)ドゥクン研修について報告が行われた。

このセミナーの目的はこれらプロジェクト事業を評価すると共に、中部ジャワ州全県の保健省及びBKKBN関係者の参加のもとJICAプロジェクトの周知と今後の自立的波及を促すことにあった。

セミナーにおける報告に関しては合同評価レポートに概略を記述した。

最後に中部ジャワ州衛生局アンドリアンサ課長より、プロジェクトの総体的評価として

- 1) JICAプロジェクトは中部ジャワ州における家族計画・母子保健のレベル・アップに貢献した。
- 2) プロジェクト事業によってカダールの活動が強化された。
- 3) しかしこれらの事業にはさらなるフォローアップが必要である。
- 4) 住民参加が促進された。
- 5) 日本からの専門家と活動を通して事業を継続したい。
- 6) 中央政府または県の予算で他の県にも活動を広める必要がある。
- 7) デマクとクラテンにおけるプロジェクトに関しては2年間延長すべきである。との総括が行われた。

2-1-3. 「イ」国側との協議結果に関する報告

セミナー第1日目のプログラム終了後、中央からの出席者を含めてプロジェクトサイトのワーキンググループ協議を開催し、日本から携行した結論抜き合同評価レポートの原案を調査団側から提示した。

延長に関しては具体的に触れていないながらも、延長を示唆する表現が随所に見いだせる原案であったため、若干の字句の修正を加えるのみで合意に達し、ジャカルタにおける合同評価委員会へのドラフトとすることを決定した。

9月21日、BKKB本部において合同評価委員会が開催され、調査団はバンドゥンガンにて合意に達したドラフトに、結論を加えて提示し、討議を行った。

結論以外の部分に関しては若干の字句の修正のみで合意に達したが、「イ」国側は延長に関する具体的表現を結論に記述することを要求した。しかし、調査団は派遣目的があくまでも評価であること、延長に関しては調査団の報告に基づいて日本政府によって決定されるべきものであるとの立場から、本文中並びに結論に記述された延長を示唆する表現にとどめたい旨主張し、最終的に「イ」国側の合意を取りつけた。

9月22日調査団長及び「イ」国側R/D署名者によって合同評価レポートに署名が行われた。

3. 協力実施の経過

3-1. 相手国の要請内容と背景

「イ」国政府は、全国規模の家族計画事業推進を図る組織として、「国家家族計画調整委員会（BKKBN）」を設立し、活動計画の立案および実施評価の調整を推進してきた。

本件については、当初先方から無償資金協力を含む「家族計画医学研究センター」設立に係る要請があったが、我が方として同分野の研究協力形態の協力が困難なこともあり、同国の家族計画事業の支援とともに、母子保健の改善を目指すことがきわめて重要との判断から、1989（平成元）年3月、当時の医療協力部・人口家族計画プロジェクト国内委員会・村松 稔委員長を団長とするコンタクト・ミッションを同国に派遣した際、母子保健と統合した家族計画分野への協力について先方に打診した。

これに対し、「イ」国政府は1989（平成元）年6月、地域に根ざした母子保健・家族計画分野を重点に、保健所活動の支援等のレファラル・システムの強化を含めたプロジェクト方式技術協力を正式に要請越した。

当事業団は、同国の人口家族計画の基礎的指標の収集・協力可能な分野の絞り込みを目的として、1989（平成元）年6月基礎調査団を派遣し、さらに同年11月に平山宗宏 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 日本総合愛育研究所所長を団長とする実施協議調査団を派遣し、1989（平成元）年11月29日から1992（平成4）年11月28日までの3年間の期間にて、本プロジェクトを開始した。

3-2. 暫定実施計画（TSI）

本プロジェクトにおいては、プロジェクト・エリアを中部ジャワ州とし、さらにデマック・クラテン両県をパイロット・エリアに定めた。

その他、TSIにおいて暫定的に定めた協力計画の内容は以下のとおりである。

(1) 日本側担当事項

a. 専門家派遣

（長期）チームリーダー 92年半ばから派遣

調整員 92年初頭から派遣

家族計画・母子保健 92年初頭から派遣

（短期）必要に応じ、適切な数の専門家を派遣する。

b. C/P研修

研修員の人数・研修期間は、実施期間中に取極める。

c. 中堅技術者養成事業

d. 機材供与

e. ベースラインサーベイ

(2) インドネシア側担当事項

a. 以下のC/Pの配置

プロジェクトダイレクター

メディカルスタッフ

コメディカルスタッフ (FP/MCH)

リエゾンオフィサー

秘書・クラーク

b. オフィスの整備

c. ベースラインサーベイ

3-3. 協力実施プロセス

89年11月から92年9月までの形態毎の協力実績は附属資料1. のとおりである。

3-4. 中間評価結果とフィードバックの状況

平成3年9月に巡回指導調査団を派遣し、協力開始後約2年間が経過した段階でのプロジェクトの進捗状況の把握および協力終了までの方針につき、先方と打ち合わせた。その結果、地域ベースの家族計画・母子保健活動を推進することについて、日本側・「イ」国側双方に共通の認識が十分浸透しており、また、先方が人材育成・組織化の重要性を理解した上で日本側との協力活動に取り組んでいる状況が確認された。

4. 目標達成度

4-1. 案件目的の達成状況

本プロジェクトの目的は、対象地域である中部ジャワ州の地域住民に対する家族計画・母子保健活動の促進を図るとともに、レファラルシステムを向上させることである。プロジェクト活動開始後2年10ヶ月を経過しているが、協力開始当初、予期し得なかった基礎的データの収集・確認や、それに基づく詳細活動計画の策定、および二省庁にまたがるプロジェクト実施体制の整備等に多くの時間を割かれた。そのため本格的に開始した協力活動の結果として得られる目的達成度を測定するには、実質的な活動期間があまりに短すぎるといえる。

4-2. 各協力項目の達成状況

現在までの協力項目ごとの活動状況はそれぞれ以下のとおりである。

(1) 家族計画・母子保健サービスの向上

1) 「妊婦検診カードの普及」

91年6月より2村で試行し、92年4月中旬に評価を行った結果、妊婦の検診率が大幅に向上するなどの成果が見られた。また、91年12月には同事業に係る研修を実施し、対象を50村に拡大し実施中である。

しかし、カードの配布・使用目的理解の促進、記入方法（妊婦台帳含む）の徹底等が必要と判断され、今後ともモニタリングおよびレビューを続けていく必要がある。

さらに、妊婦検診カードの普及を進めるとともに、先方は日本の経験に則した「イ」国版母子手帳の開発について、強い要望を示しており、これについても開発はこれからの課題であるが、これまでの協力実績が活かされることとなることから、開発ならびにモデル地域での試行についても、日本側の協力を継続すべきであろう。

2) 「母子の栄養改善指針の作成」

ポシアンドゥ活動のコンポーネントの一つである、母子に対する「栄養改善」に関する協力は、91年8月に佐藤善子専門家（地域栄養）着任後に開始された。これまでにポシアンドゥの栄養改善活動の調査を終了した。今後は栄養改善プログラムの策定を行うため、まず栄養摂取状況に関する調査を実施し、その結果に基づき栄養指導者用のテキスト作成と提言の取り纏めを行う予定である。

(2) ポシアンドゥ・インディケータ（ポシアンドゥ活動の自己診断指標）の開発と利用の促進

同インディケータの開発については、90年・91年に兵井伸行専門家（公衆衛生指標）を短期で派遣し、基本的な開発につき先方の理解を得ており、92年4月に計画が立案され、同7月より75のポシアンドゥに導入された。しかしながら、その有効性を判断するためには、さらに試行を続けるとともに、十分なモニタリングを行うことが必要と思われる。

(3) プロジェクト地域におけるレファラルシステムの強化

レファラル病院と地域の保健所システムとの連携の強化が協力項目として挙げられているが、リーダーとして派遣された医師が早期帰国するなど、当初予測し得ない困難が生じたため、病院活動の監視等、本分野に関する協力活動については、いまだ目的を達成したとは言い難い。また、Dasawisma Kaderと呼ばれるボランティアによる地域保健組織作りについては、レファラルシステムの中でコミュニティレベルに近い部分として重要なものであり、91年12月デマック県20村のVillage Midwifeを対象に研修を実施済であるが、組織的な活動として軌道に乗るまでは、今後とも定期的な指導が必要である。また、デマック県を訪問した際、レファラルに関する記録の不備が見られた。

(4) 家族計画・母子保健に係る指導者等の人材育成

上記(1)(3)の研修の他、保健所スタッフ（医師、助産婦）に対する研修や、カダールを対象としたVisiting Cardの活用に関する研修など、各種の研修を実施してきており、関係者に対する技術・知識の普及という点では大きな成果が得られているが、習得した知識を実際の日々の業務において実践し、そのフィードバックを踏まえて再検討を加える等の試行期間が当然必要となろう。

(5) 家族計画・母子保健に係る教材等の普及・広報

1) 移動広報車活動スタッフに対する研修

91年11月吉田昌生専門家（IEC）を派遣し、スタッフに対する研修を実施した。今後は既存のスポット等のソフトを用いて編集し、広報活動に活用することを計画しており、現在は編集システムの機器構成について検討しているところである。したがって、本システムが整備された後には、機材の使用法および実際の活用について短期専門家による指導が必要となろう。

2) 新婚夫婦に対するガイダンス（BP4）

本事業は保健省、BKKBN、宗教省の協力により、家族計画・母子保健の知識を伝えることを目的としており、92年2月には、各省庁関係者を対象に、同事業に関する研修を実施した。その結果としては、a)関係者間に強力なチームワーク意識が生まれた、b)ガイダンス担当者の知識が深まった、c)ガイダンスに参加する夫婦数の増加が見込まれる、d)ガイダンスの質が改善される、等の点が先方より指摘された。

5. 案件の効果

5-1. 効果の内容

本プロジェクトの実施により、地域レベルで多くの改革的な保健活動が軌道に乗ることとなり、他の地域に対するモデルの構築という点で効果が見られた。そのひとつとして、本プロジェクトで開発されたポシアンドゥキット（ポシアンドゥ活動で用いられる検診キット）は、先方保健省内でもその有用性が十分認識され、日本側に機材供与の要請があり、本件については無償資金協力による対応が検討されるまでになっている。

しかしながら、これまでに行われたプロジェクト活動のほとんどは、本格的に開始されてからまだ日が浅いか、パイロット的に試行されているのみであることから、今後とも継続的なモニタリングが必要と判断される。

また、事業実施体制に係る効果としては、本プロジェクトの対象分野が保健省とBKKBNの2省庁の所管にまたがることから、協力実施の各過程において両者の協調を引き出すよう日本側として努力を重ねた結果、2者間の相互協力が促進された点について先方も高く評価している。

5-2. 効果の広がりと受益者の範囲

プロジェクトの対象地域をデマック・クラテン両県とし、この2県の計100村の県から4村をモデル地区として選定し、妊婦カードの普及事業等についてはこれらの4村において集中的に展開してきたが、各種の研修事業や助産婦検診キットの配布等は全エリアを対象として行われた。

6. 評価結果総括（詳細は附属資料2. 参照）

6-1. 評価の総括

当初の協力期間が3年間であり、上述のとおりプロジェクトの各協力活動は軌道に乗りつつある段階に至っているが、いずれの事業についても、その進捗をモニタリングし、さらなるガイダンスを重ねるために協力を継続する必要があると判断された。

6-2. 取るべき措置

上記の判断に基づき、以下の内容にて協力期間を延長することが望まれる。

(1) 延長期間 2年間

(2) 協力内容

- 1) 妊婦検診カードの普及促進ならびに「イ」国版母子手帳の開発とモデル地域での試行
- 2) 栄養・食生活調査の結果に基づく栄養改善プログラムの策定
- 3) レファラルシステムの改善
- 4) 家族計画・母子保健に係る人材育成
- 5) 視聴覚機材を用いた広報普及活動の改善
- 6) 開発されたポシアンドゥインディケータの有効性に係る検討

附 屬 資 料

1. 協力実績表

附屬資料 1. 協力実績表

		11 ⁰⁰ 12	1 ⁰⁰ 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 ⁰⁰ 2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
調査団派遣																								
長期専門家派遣																								
①	安達 邦子	x 1.29																						
②	山下 信也																							
③	佐藤 信也																							
④	岩橋 信一																							
短期専門家派遣																								
①	兵井 光一	x 3.10-4.6																						
②	野口 勝	x 3.10-3.21																						
③	岡本 信行	x 9.16-9.22																						
④	兵井 信行	x 9.16-9.30																						
⑤	岡本 昌生	x 7.17-7.31																						
⑥	兵井 健	x 11.17-11.30																						
⑦	吉田 英明	x 12.8-12.15																						
⑧	岡本 英明																							
⑨	鈴木 雅治																							
⑩	齋藤 雅治																							
研修員受入																								
①	母子保健	x 5.27-6.8																						
②	家族計画	x 5.27-6.8																						
機材供与																								
機材現地調達 (平成元年度)																								
Rp	1,380,938,900																							
機材現地調達 (平成2年度)																								
Rp	865,784,380																							
機材現地調達 (平成3年度)																								
Rp	527,973,047																							
機材現地調達 (平成4年度)																								
Rp																								
ローカルコスト負担																								
中堅技術者養成																								
①	平成2年度																							
Rp	73,764,000																							
②	平成3年度																							
Rp	62,017,500																							
計、制工(予)																								
①	平成2年度																							
Rp	24,989,000																							
②	平成3年度																							
Rp	14,563,000																							
③	平成4年度																							
Rp																								
技術普及広報																								
①	平成2年度																							
Rp	22,425,000																							
②	平成3年度																							
Rp	28,000,000																							
③	平成4年度																							
Rp																								
技術交換																								
タイ国受け入れ																								

2. ジョイントエバリュエーションレポート

JOINT EVALUATION REPORT
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR
THE PROJECT FOR COMMUNITY-BASED FAMILY PLANNING
AND MATERNAL AND CHILD HEALTH
IN
THE REPUBLIC OF INDONESIA

September 22, 1992
Jakarta
The Republic of Indonesia

Mutually attested and submitted

to all concerned

September 22, 1992

Jakarta

The Republic of Indonesia

岡本 曉

Dr. Akira Okamoto M.D.
Leader,
Japanese Evaluation Team,
Japan International Cooperation
Agency,
Japan

Dr. S.L. Leimena, MPH
Director General of Community
Health,
Ministry of Health,
Republic of Indonesia

by Dr. Abdullah Cholil, MPH
Deputy for Planning and Programme
Analysis,
National Family Planning
Coordinating Board (BKKBN),
Republic of Indonesia



Discussion meeting between the Evaluation Team of Japan International Cooperation Agency (JICA) and the Indonesian authorities concerned on the evaluation of the Japanese Technical Cooperation for the Project for Community-based Family planning and Maternal and Child Health.

Date : September 21, 1992

Place : BKKEN, Jakarta, the Republic of Indonesia

Attendants : JAPANESE PANEL

Japanese Evaluation Team

Dr. Akira Okamoto	Leader
Mr. Eiji Hiranaka	Member
Dr. Kensaku Hata	Member
Mr. Masaharu Saito	Member

JICA Experts

Mr. Shinya Iwayanagi	Project Coordinator
Ms. Ichiko Yamashita	JICA Expert
Ms. Yoshiko Sato	JICA Expert

JICA Indonesia Office

Mr. Satoru Watanabe	Assistant Resident Representative
---------------------	-----------------------------------

INDONESIAN PANEL

Ministry of Health(MOH)

Dr. S.L. Leimena, MPH	Director General of Community Health
Dr. Nardho Gunawan, MPH	Director of Family Health Div.
Dr. Widyastuti, MPH	Director of Community Participation Division
Dr. Sutaryo, MPH	Chief, Sub-Division of Integration Programme on Health Center and Health Effort
Mr. M.Sahal Barnawi	Chief, Sub-Division of Family Nutrition Improvement, Nutrition Division
Dr. Soebagyo Oetomo, MPH	Chief, Sub-Div. of Reproductive, Family Health Division

Mr. Suprijadi	Chief, Sub-Div. of Admin. Community Participation Div.
Dr. W.Tedjosaputro, MPH	Director of Health Services, Central Java Regional Office
Dr. Andryansyah, MPH	Director of Communicable Diseases Control and Health Promotion, Central Java Regional Office
National Family Planning Coordinating Board(BKKBN)	
Dr. Abdullah Cholil, MPH	Deputy for Planning and Programme Analysis
Mr. Sardin Pabbadja	Deputy for Programme Operational Development
Mr. Sumarsono	Head, Bureau of Planning
Ms. Sumarni, MPA	Head, Bureau of IEC
Mr. Sugeng Margono, MA	Chief, Division of Community Development, Bureau of Community Institution Development
Mr. Haryono Moelyo	Staff, Bureau of Planning
Dr. Ismoen, MPA	Director of Family Planning Operational Service, Central Java Office

I . INTRODUCTION

The Japanese Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Akira Okamoto visited the Republic of Indonesia from September 13th to September 23rd, 1992 in order to jointly evaluate with the Indonesian authorities concerned the past achievements and future prospects of the Japanese Technical Cooperation for the Project for Community-based Family Planning and Maternal and Child Health (hereinafter referred to as "the Project") on the basis of the Record of Discussions signed on November 29th, 1989.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Team discussed and studied together with the Indonesian counterpart personnel concerned on a number of aspects regarding the progress, performance of commitments and achievements of the Project.

Through careful studies and discussions, both sides summarized their findings and observations as described in the following chapters.

II . METHOD OF EVALUATION

1. Materials used as reference

In order to evaluate the past performance and achievements both quantitatively and qualitatively, the following materials are used as a basis of reference;

- (1) The Record of Discussions (R/D)
- (2) The Tentative Schedule of Implementation (TSI)
- (3) The official requests made by the Government of the Republic of Indonesia with respect to dispatch of Japanese experts, Indonesian counterpart personnel training in Japan and provision of equipment by means of Technical Cooperation Forms A-1, A-2, A-3, and A-4 respectively.
- (4) The Minutes of Discussions agreed in the process of the implementation of the Project.

2. Discussion and Observation

The Team discussed various aspects of the Project and observed the buildings, machinery, equipment, facilities, utilities made available for the Project, and also observed activities such as Posyandu.

III . OBJECTIVE AND ITEMS OF TECHNICAL COOPERATION OF THE PROJECT

1. Objective of the Project

According to the Record of Discussions signed on November 29th, 1989, the objective of the Project is to improve community-based family planning and maternal and child health and its referral system in the Republic of Indonesia, with emphasis on activities in the Central Java model area.

2. Items of Technical Cooperation

In order to accomplish the above-mentioned objective, both sides agreed that technical cooperation should be implemented on the following items through dispatch of Japanese experts, acceptance of Indonesian counterpart personnel for technical training in Japan and provision of equipment.

- (1) Improvement of community-based family planning and maternal and child health services
- (2) Improvement of family planning and health care referral system
- (3) Training of Indonesian counterpart personnel assigned to the Project, health and family planning workers, and community leaders in the model areas
- (4) Dissemination of relevant information and educational materials on family planning and maternal and child health to targeted family members
- (5) Development of the indicator for monitoring and evaluation of Posyandu activities

IV . RESULT OF EVALUATION

A detailed description of accomplishment in each field of cooperation is given below.

1. Improvement of community-based family planning and maternal and child health services

Community-based family planning and maternal and child health service in the Republic of Indonesia is provided within the framework of Posyandu (integrated health post). Regarding this Posyandu activity, the following programmes have been implemented;

(1) Mother Health Card (KMS IBU HAMIL) programme

This programme has been carried out under national project of Indonesia for several years. Under this project, in collaboration with Japanese long-term expert, this programme has been conducted intensively in four villages in the model area since June 1991 in order to ensure sufficient card supply, and to establish efficient distribution system, thus encouraging its application among health personnel.

As this project has proceeded, the number of pregnant women who took regularly medical examination has largely increased in each village. However, the purpose of its application has not been fully understood. Therefore, it is recommended to conduct further guidance in these villages. Moreover, after the training course for promotion of this programme was implemented in December 1991, the programme area has been expanded to one hundred villages. It needs to monitor its performance for a while and to review the programme itself based on its result.

(2) Improvement of nutritional condition

As one of the activities which promote maternal and child health, the improvement of their nutritional condition is considered highly important. For this purpose, one long-term expert in the field of community nutrition was dispatched in the middle of project period (Aug. 1991). A survey on the present nutrition-improvement activity in Posyandu has nearly come to an end. After the completion of this survey, another survey on dietary life/nutritional condition is planned to be done. The purpose of these surveys is to gather useful information for making a suitable textbook for nutritional advisor and for providing

recommendations for the authorities concerned. In this respect, the activities in this field still remains at the preparatory stage.

2. Improvement of family planning and health care referral system

During this project, the effort has been made to grasp total number and physical conditions of pregnant women at each Posyandu site in the model area - Demak and Klaten regencies by using Mother Health Card mentioned above. At the same time, the relationship between traditional birth attendants (TBA) and Puskesmas (Health Center:HC) has been improved as a result of training for TBAs and HC midwives. However, unparalleled development was observed in the referral system from health center to each hospital (regency/provincial) between the two regencies. A different approach should be applied to establish appropriate system in each regency by utilizing donated equipment to the hospitals more effectively.

3. Training of Indonesian counterpart personnel assigned to the Project, health and family planning workers, and community leaders in the model areas

Besides several kinds of training mentioned above, the following types of training/seminar were implemented under this project (See ANNEX);

- Counterpart training in Japan (observation / practical training on FP-MCH and IEC)
- Seminar/Workshop on FP-MCH Programme (general introduction for counterpart personnel)
- Refreshing course for HC doctors/midwives in two regencies
- Seminar on Health Information Management
- Training on community participation
for regency and sub-district personnel
for Dasa Wisma Kaders (community health volunteers)

It is evaluated that the above mentioned training/seminar have contributed to enhance not only the capability to fulfill their duties but also the togetherness among community people on the basis of integration of FP and MCH. Moreover, the cooperation among the authorities concerned in the family planning and health sectors has been facilitated as a result. The application of acquired knowledge and technique by Indonesian

trainees requires further supervision and follow-up activities by Japanese experts until they can manage without help.

4. Dissemination of relevant information and educational materials on family planning and maternal and child health to targeted family members

For this purpose, one short-term expert in the field of IEC was dispatched for giving advice on the content of audio-visual materials projected in the Mobile operation. Moreover, IEC training course was implemented in November 1991, and training course for Mobile crew was performed in January 1992. In this fiscal year, the editing system for audio-visual materials are scheduled to provide. It is desirable to dispatch a short-term expert for guidance on its operation and maintenance.

The guidance on FP-MCH for newly married couple are planned to introduce by BP4 (Marriage and Divorce Counsel Committee - a division in Department of Religion) in collaboration with BKKBN and MOH. For this purpose, training programme for concerned staff (midwives/nurses, PPLKB - supervisor for family planning field staffs, KUA staffs - officials in Department of Religion) was performed in February 1992. Nevertheless, the implementation of this guidance is under consideration up to the present.

5. Development of the indicator for monitoring and evaluation of Posyandu activities

Two short-term experts were dispatched to give advice for this purpose. The draft of the indicator was formulated by Provincial Committee on Health Indicator Development, and it has been applied on trial for monitoring and evaluating Posyandu activities in Central Java Province. It is recommended to dispatch a short-term expert to supervise whether or not it is applicable for each case, and to give further advice for expanding the trial area.

V . CONCLUSION

As a result of the joint evaluation work and discussions, both sides reached the following conclusions:

1. In general, most activities of the Project on the Record of Discussions have been proceeding very well up to the present.
2. However, it is necessary to reinforce the operational system which has been created through this community-based Project, and to monitor its performance for a while in order to establish the basis for self-reliance in respective field.

LOCAL TRAINING PROGRAMME 1990FY

TRAINING COURSE	PARTICIPANTS AND NUMBER OF TRAINEE	PLACE	DURATION	BUDGET	REMARKS
I Seminar I-1 Seminar on FP/MCH	MOH, BKKBN From Prov. Kab. Kec. Puskesmas.	SEMARANG	2 days Oct. '90	Rp 14,189,000	BKKBN MOH
I-2 Orientation on Premarriage Counselling	Head of KUA Kec. Member of KUA Kec. Member of BP4 Kec.	KLATEN DEMAK	1 day Nov. '90 1 day Nov. '90	Rp 10,800,000	BKKBN
SUB TOTAL	270			Rp 24,989,000	
II Middle Level Trainee Training II-1 Community Participation	Kades, LKMD, PKK, SKD PLKB, BIDAN, Jurim	26 Kecamatan in KLATEN 13 Kecamatan in DEMAK	1 day Dec. '90 to Jan. '91	Rp 34,584,054	BKKBN
II-2 Refresh Training for Doctor	Puskesmas Doctor	KLATEN Hsp KARIADI Hsp	3 days Jan. '91 3 days Jan. '91	Rp 12,254,090	MOH
II-3 Refresh Training for Midwife & Nurse course	Puskesmas Midwife & Nurse	DEMAK Hsp DEMAK Hsp. KLATEN Hsp KLATEN Hsp	3 days Feb. '91 3 days Feb. '91 3 days Feb. '91 3 days Feb. '91	Rp 11,417,600	MOH
II-4 Health Information Management	Puskesmas Doctor, Midwife PPLKB, PKK Kec.	DEMAK KLATEN	2 days Feb. '91 2 days Mar. '91	Rp 15,508,346	BKKBN
SUB TOTAL	3297			Rp 73,764,000	
TOTAL	3567			Rp 98,753,000	

LOCAL TRAINING PROGRAMME 1991/92

Annex

TRAINING COURSE	NUMBER OF TRAINEE AND PARTICIPANTS	PLACE	DURATION	BUDGET	REMARKS
I Seminar Seminar on Community participation	Dasawisma Kader 1556 63	20 Puskesmas in DEMAK 1 Puskesmas in Klaten	2 days Jan. '92 2 days Jan. '92	Rp 13,976,000 Rp 587,000	MOH
SUB TOTAL	1619			Rp 14,563,000	
II Middle Level Trainee Training					
II-1 Community Participation	PUSKESMAS DOCTOR&MIDWIFE PPLKR, PAK 100	Bandunggang	2 days Dec. '91	Rp 7,438,850	MOH
II-2 Promotion KMS IDU HAMIL 1. Trainer's Training 2. KADER Training	DOCTOR, PARAMEDIS 78 118 950 1450	DEMAK KLATEN DEMAK KLATEN	1 day Nov. '91 1 day Nov. '91 2 days Dec. '91 2 days Dec. '91	Rp 17,791,650	MOH
II-3 FP/ACH Guidance for New Marriage Couples	BP4, PPLKB, MIDWIFE&NURSE 46 82	DEMAK KLATEN	2 days Feb. '92 2 days Feb. '92	Rp 11,213,000	BKKBN
II-4 TBA's Training 1. Trainer's Training 2. TBA's Training	MIDWIFE 40 60 200 300	DEMAK KLATEN DEMAK KLATEN	2 days Jan. '92 2 days Jan. '92 4 days Jan. '92 4 days Jan. '92	Rp 14,769,000	MOH
II-5 Work shop on Mobile Activiteis 1. Mobile Operational Manual (Trainer's Training) 2. Mobile crew Training	BKKBN, MOH, Journalist, TVRI RRI, M. of Information, etc Mobile crew 14 40	Bandunggang SEMARANG	2 days Nov. '91 4 days Jan. '92	Rp 10,805,000	BKKBN
SUB TOTAL	3478			Rp 62,017,500	
TOTAL	5097			Rp 75,580,500	

JICA